



連載第6回

失敗しないための 海外留学支援ガイド

タフツ大学編：後編

築山鉄平



2000年、九州大学歯学部卒業。
2001年、佐賀医科大学（現佐賀大学）
歯科口腔外科学講座。2004年、勤務
医を経て2006年、タフツ大学歯学部
歯周病科大学院レジデント。2009年
6月、同大学院卒業（最優秀臨床賞受
賞）Master Degree取得。2009年
7月～同大学審美歯科 fellow ship。



【大学データ】米国マサチューセッツ州ボストン市に位置する私立の総合大学。医学部、歯学部は世界屈指の実績を誇る。

【地域データ】ボストンは人口約60万人の東海岸の一都市。世界的に有名な大学計60以上もの大学が存在し、それゆえ「極端な学園都市」と呼ばれる。比較的安全な街として知られ留学生も含め、多くの日本人が滞在する。

必要書類は早めに準備すべき

本大学院に留学する際に必要な項目として、①願書②推薦状（計3通：卒業歯学部の学部長1通、教授あるいはそれに相当する職位の方から1通、その他1通）③自己推薦状、エッセ

イ、履歴書④歯学部卒業時の成績表⑤TOEFLのスコア（paper base：550点、iBT：80点以上）が挙げられます。

上記の必要事項を用意し、入学前年の7月（プログラムはつぎの7月から開始）から受付開始となります。書類選考を経てChairmanであるDr. Griffinと2名のFacultyとの面談の日程が決まります。受付の締め切りは10月前後までですが、その頃にはほぼ入学者は決定してしまうため、書類の提出は早い方がそれだけ面接に呼ばれる時期が早くなり、出願者の中でも優位になります。また歯学部卒業時の成績表は、ECE（Educational Credential Evaluator）に郵送してから結果を手元に受け取るまで期間を要するので、とにかく早めの準備をお勧め致します。面接後、審査期間を経て

合格通知が送付されるという流れです。

現在はオンラインでも願書申請できますし、問い合わせをすれば書類一式を送付してもらうことができます。詳細は大学HP（<http://dental.tufts.edu/>）をご覧ください。

留学を検討している方へのアドバイス

実際にプログラムが始まり、日本からの留学生が苦勞するのはやはり英語です。TOEFLのスコアとは別に生きた英語力が要求されるので、それに応じた学習が肝要となります。

私の場合、ラジオの録音やCDを購入するなりして毎日1回NHKラジオ英会話を欠かさず聞いていました。また、必然と英語を話す環境に身を置くためにも独り暮らしよりルームシェアも1つの選択肢だと思います。



本大学院の卒業式。写真中央が筆者。

私は留学後、専門教育を通じ客観的に論文を読み込む力、基礎研究と臨床を結びつける分析力、そしてそれを臨床の現場に反映させる総合力が身に付いたと実感します。3年という限られた期間に良識な知識を系統立てて学ぶ教育方法は、米国の専門医プログラムならではのと思います。

これから留学される皆様には、初志貫徹、ぜひとも夢を現実に変えていただきたいと思います（了）。